

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に理念を確認できる場所に理念を掲示し、ケア会議等で意識を高め、共有し理念の実践につなげている。	法人の3つの理念とホーム独自の理念「笑顔とその人らしさを大切に、地域で安心して生活できるよう支援する」というホームの理念を掲げ実践に取り組んでいる。利用者や家族へも契約時に理念について説明している。理念にふさわしくない言動が職員に見られた場合には言葉だけでなく文章にして残し、申し送りノートなどで共有し、感情的なしこりが残らないようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の開催、行事でのボランティアの受け入れ、デイサービス利用者介護相談員との交流、散歩に出掛けた際は、地域住民との挨拶等日常的に交流している。	法人として区に協力費を納め、区長、組総代などから区の行事などの情報をいただき参加している。また、区の新年会などに職員が出席し住民とも親しくなり、地区の一員として徐々に地域の方と交流が出来るようになっていく。高校生の職場体験があり今年も12月に2日間予定されている。踊りやハーモニカなどのボランティアが来訪し、また、隣接するデイサービスのイベントでも地域の人々とふれあい楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や行事等で認知症の人への理解を深めて頂く様、関わり方の説明、支援方法を地域の人々に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、市の担当者、区長、民生委員の方に出席して頂き、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況について報告、意見交換を積極的に行いサービス向上に活かしている。	家族、区長、組総代、民生児童委員、市職員などが出席し、2ヶ月に1回開催している。避難訓練の予定に合わせ会議を開き消防署員や消防団員の参加もいただいている。利用状況や活動状況等を報告し、意見交換が行われている。また、介護保険制度の変更等があれば、市職員からの説明等も受けている。委員専用のグループホームの新聞を作成し、利用者の活動状況を分かりやすくしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ケアマネ連絡会等で市町村担当者と連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えながら、情報交換、協力関係を築くように取り組んでいる。	毎月第3火曜日に開催される市のケアマネージャー連絡会に出席し事例検討をしたり研修を受け、また、情報交換もしている。介護認定の更新については調査時に同席する家族もいるが職員が利用者の状態を調査員に正しく伝えている。市から派遣される介護相談員2名の来訪が年2回ほどあり、利用者とは話をした後、何かあれば報告をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をゼロにするための環境作り、技術向上の徹底、身体拘束をしないケアを理解しており、利用者の安全を確保しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人では身体拘束及び虐待に関する研修が必須研修として定められており、職員は毎年度必ず受講しなければならないようになっている。また、法人内には身体拘束委員会があり北信地区代表者が本部の会議に参加し地区内の各施設へ内容を伝えたり、法人の中野地区ケア会議で伝達研修等もあり職員へ周知している。外出傾向が強い利用者については見守りを主体として職員と一緒に外へ出て気分転換などをしている。ベッド柵は2点までとし、センサーマット等の使用も全くない。	

グループホームこうしゃ敬老園

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止にむけ、研修を行い職員間で互いに確認し合い、意識、知識を高め事業所内で虐待が見過ごされる事がないよう注意を払い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用されている方はいないが、権利擁護の研修に参加し、全職員に周知し理解を深めている。今後入居の方で必要であれば導入、活用出来るよう支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の締結、解約、改定等の際は利用者や家族が納得するよう丁寧な説明を行い、契約内容、利用料金、起こりうるリスクについて理解、同意の上署名、捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が意見、要望を言ってくれる様、意見箱を設け家族との連絡を密にし、何でも行って頂ける雰囲気作り、関係性を大切にしている。介護相談員の訪問時など利用者が外部の方と話しが出来る様配慮している。	利用者自ら、意見・要望などを口頭で伝えられる方は少ないが、職員間で検討し改善に繋げている。定期受診の付き添いを原則家族としているので遠方にいる家族も月1回は来訪しており、毎週訪れる家族も含め来訪時には利用者の生活状況を知らせ、要望等を聞いている。2～3ヶ月に1回発行する「こうしゃ敬老園グループホーム新聞」と利用者の担当職員の手紙を添えて毎月家族へ送り家族とのコミュニケーションを図っている。9月には敬老会を兼ね家族会を開催し、多くの家族の出席をいただき盛り上がり、また、意見なども運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の意見や提案をきく機会を設けている。ケア会議など意見や提案を出しやすい環境作りに努め、利用者ノート、業務連絡ノートに記入し情報の共有、利用者の関わりの中で気づきや変更点など質の良い介護に向け反映させている。	毎月第1月曜日に開かれる職員会議は業務連絡や利用者のケアなどについての内容で、職員間の意志統一を図っている。日々の申し送りや業務連絡ノートなども活用し情報の共有も行われている。本年度、法人としての人事考課制度が本格導入されており自己評価シートを基に6ヶ月毎に管理者との面談も実施され、意見や要望等も聞かれている。また、今年度、労働安全法上のストレスチェックも法人として実施し集計中であるとのことであった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、個々の悩み等把握し、勤務状況、労働時間、給与水準、やりがいなど、向上心をもって働けるよう、より良い職場環境作り、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員一人一人のケアの実際と力量を把握し、法人の研修を受けられる機会を設けている。働きながら育成している。エルダーを採用し経験のある職員が経験の浅い職員に指導する取り組みも実施している。		

グループホームこうしゃ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームとの連絡会に参加し、意見交換、勉強会を行い同業者との連携、交流ができレベルアップ、サービスの質の向上に向けた取り組み、良い人間関係を築いている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、本人が困っている事、不安な事、要望を十分に伺い耳を傾けながら、本人が安心して過ごせる関係作り、環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、家族の立場にたち、困っている事、不安な事、要望に耳を傾け安心して頂けるよう信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望、想いを受け止め確認し、必要としているサービス、支援を見極め提案に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事を把握し、生活の中で役割をもてるよう支援し、共に支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を取り合い、家族の意向も聞きながら、本人と家族の絆を大切にし、本人を共に支え合う関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人、親戚等面会の際にはゆっくり過ごして頂けるよう環境をつくり、家族との外出など馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	自宅近所の方の来訪を受ける利用者がいる。隣接するデイサービスの利用からホーム利用に到った利用者もあり、馴染みの仲間と行き来している方もいる。病院の定期受診の際に家族と行きつけの美容院に立ち寄り好みの髪型にする利用者も数名おり、毎月一度自宅に外泊する方もいる。お墓参りに家族と共に出掛ける方やお盆に一時帰宅し家族とともに過ごす方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の性格、感情の変化を理解し、利用者同士の関係を把握、観察、環境に配慮し孤立せず、関わり合い、助け合い、支え合える、良い関係を築けるよう支援に努めている。		

グループホームこうしゃ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関係は難しいが、サービス終了後もできる事があれば、相談や支援が出来る様努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で一人一人にゆっくり関わる時間を作り、思い、暮らしの希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	思いや意向などを自らの言葉として表すことができる利用者は若干名で、多くの利用者には職員が何らかの言葉掛けをし選択していただく場面を作っている。目の動きや仕草から判断せざるを得ない利用者もいるが、利用開始時のフェイスシートや利用後のアセスメントシートを基に職員は必ず声掛けしてから意思を確かめ、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等情報を頂き、これまでの生活、暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人が個々のペースで過ごしなが、日々の関わりの中で、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で、本人や家族の意向を確認し、定期的にカンファレンスやモニタリングを実施、本人がより良く暮らすため、現状に即した介護計画を作成している。	職員による利用者の担当制を取っている。利用者や家族から要望を聞き、担当職員とケアマネージャーが話し合いをし、他の職員も交え援助目標や援助内容を検討している。長期目標は6ヶ月、短期目標は3ヶ月で立案されており、3ヶ月毎にサービス担当者会議を開き見直しをしている。計画の内容は家族へも説明し同意を得ており、職員もサービス計画書がすぐに見れる状態にあり、毎日個人別サービス日課表に利用者の記録を書き込むことで利用者の現状を把握し、変化がないかどうか確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の必要性、大切さを職員に伝え、ケース記録や利用者ノートを活用し職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に合わせ、個別性を大切にしている。隣接しているデイサービスとの交流も取り入れ、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

グループホームこうしゃ敬老園

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接するデイサービスのイベントへの参加、ボランティアの来訪、地域の花火大会など地域資源を把握し、利用者が安全で豊かな暮らしが出来る様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切にし、説明し納得が得られたかかりつけ医への受診の支援、適切な医療が受けられるよう支援している。	殆どの方がホーム利用以前からのかかりつけ医を継続しているので、利用者に係わる医師は6名となっている。受診の付き添いは家族にお願いしており、ホームで医師宛の情報提供書を作り持参していただいている。歯科については往診で見えていただける協力医を利用する方が多い。週1回協力医療機関から訪問看護師が訪れ健康管理やアドバイスをいただいている。万が一の時には隣接するデイサービスの看護師にも相談することができ、また、同じデイサービスの理学療法士からも機能面での助言もいただいている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、訪問看護師、デイサービスの看護師に相談し早期受診、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、病院へ来訪し入院時の情報提供、入院後の利用者の状況等病院関係者と情報交換相談に努め、退院後の方向性等早期に退院できるよう、病院関係者との関係作りにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアについて、本人家族に早い段階で説明し、支援については家族の意向を確認し、尊重しながら事業所で出来る事を十分説明し、主治医との対応方針を共有しながらチームで支援に取り組んでいる。	ホームとしての「重度化対応及び終末期ケア対応指針書」があり、契約時に説明している。昨年度、開設から初めての看取りが行われた。現状、ホームでの看取りを希望されている家族もいるが、緊急搬送等で入院に繋がることも多く、退院後もその都度家族と話し合い意思確認をしている。かかりつけ医の24時間対応についての課題も抱えており、医療行為が必要となった場合の取組みが難しいという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命における救急蘇生法の研修への参加、マニュアルを用意し、急変時、速やかに対応出来るよう応急手当などの初期対応の訓練、常に確認を行い実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施している。そのうち1回は運営推進会議の際実施し、地域の方に参加して頂き防災訓練をしている。地域との協力体制を築いている。	区との防災協定が結ばれており、有事には協力が得られることになっている。年2回訓練を行っており、秋には運営推進会議と同日に実施し地域の委員の方にも見学をいただいている。また、夜間想定で、同じ敷地内のデイサービスの職員の協力もいただいている。万が一のために五目ごはんや水、介護用品などの備蓄も確保している。	

グループホームこうしゃ敬老園

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉掛け、柔軟な対応をしている。	「人格の尊重やプライバシー保護」に関する法人の必須研修が年1回あり、法人北信地区の委員が受講し、受講者が職員に伝達研修し人権意識を徹底している。排泄や入浴時の異性介助についても信頼関係ができていたので拒む利用者はいないという。利用者への馴れ馴れしい呼びかけや気分を害するような言葉遣い・態度が見受けられた場合には管理者が直接注意を促がしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、本人が自己決定しやすい声掛けや雰囲気作りに努め、思いや希望をきく中で信頼関係を築き支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、その日をどのように過ごしたいか、体調や気持ちに配慮しながら、その人らしい暮らしへの支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に添ったその人らしい服装、行きつけの美容院へ出掛けたり、そのひとらしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しむことができるよう、旬の食材、食べたい物を取り入れた食事作り、味見をしながら一緒に関わり合い、食事を楽しむことのできる支援を行っている。	自力で摂取できる方が半数以上おり、見守りや一部介助を必要とする利用者もいる。おかゆやミキサーなど食べやすい形態で対応する利用者もいる。利用者もできる範囲で野菜の皮むきなどのお手伝いをしている。食事のメニューは法人本部の管理栄養士により立てられており、男性職員も一生懸命調理に取り組んでいた。利用者と職員と一緒にホットケーキやニラせんべい、餃子などを手作りし楽しんでいる。誕生会は利用者の食べたい物や美味しいケーキでお祝いしている。ホーム南側の道路に面した敷地内でお茶や軽食を頂きながら気分転換をすることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量は個別日課表に記録し、一日の食事量、水分量を把握している。塩分控えめの利用者には状態に合わせた食事の提供への支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の汚れや臭いが生じないよう、洗口液を使用したり、毎食後、一人一人の口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。義歯は週1回、定期的に洗浄している。		

グループホームこうしゃ敬老園

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人に合わせた排泄周期で、トイレ誘導、オムツ交換介助をおこなっている。又、仕草や行動の把握をしトイレ誘導、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	全介助の方が半数以上おり、自立の方や一部介助の方も含め、可能な限りトイレで排泄できるようにしている。布パンツの方も多く、布パンツとパット併用、リハビリパンツなど一人ひとりに合った介護用品の選択に心掛けている。居室にポータブルトイレを置いている利用者もほぼ半数ほどおり、職員が声掛けしながら排泄状況を確認している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し排便の有無、下剤の内服の有無を記録し、職員間で共有し排便コントロールを行っている。散歩、体操など運動を促し個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日、入浴時間の設定はあるが、希望があれば、設定日以外でも入浴が出来る様柔軟に対応している。入浴時会話をしたり、ゆっくり楽しんで頂けるよう支援している。日中、足浴をする利用者もいる。	少なくとも週2回入浴しており、日曜日以外、1日3名の方を予定している。全員が何らかの介助を必要としており、浴槽も個浴型の横スライドタイプで車椅子の利用者も浴槽に浸ることができている。浴槽に入る時と上がる時に職員二人で介助することもある。浴室全体も床暖房で暖かい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調に合わせ、本人の希望を大切に、居室での休息や臥床を促し、休息できる環境作りに努めている。室内の温度管理等安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診の際は、薬の説明書の確認をし、変更があればノートに記載し、職員間で共有している。処方内容に変更があった場合は、日常生活での変化を記録し、医師や訪問看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、たたみ、掃除と役割を持ち継続して出来る様支援している。又、イベントの際にはデイサービスに出掛けたり、誕生日会や月1度の手作り昼食など、張り合いのある毎日が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と連携をとり、外出が出来る様努めている。又、外気浴や昼食を外で食べたりしたり、月1回程のペースで全員での外出行事、外出支援に努めている。	車椅子使用の方が三分の一ほどおり、シルバーカーや歩行器を使用している方もいる。日頃はホーム周辺を散歩している。花見、バラの見学、紅葉狩り等にも隣接デイサービスの車を借り全員で出掛けている。出先でソフトクリームやお茶を頂き帰ってくることもある。天気の良い日にはホーム玄関前にテーブルや椅子をセッとし、外気浴を兼ねてお茶を飲んでいる。隣のデイサービス主催の納涼祭にも出かけている。	

グループホームこうしゃ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金の大切さを理解しており、意向がある場合、家族同意のもと、金銭の管理を自分で行っている利用者もあり支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人にとりつぎ、希望があればかけられるようになっている。個人で携帯電話を持っている方もおり、自由に掛けて頂いている。又手紙のやり取りをしている方もおり職員の方で投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールを中心とし、浴室やトイレが少し離れている為、不快な混乱を招くような刺激がないよう配慮されている。ホールの中心や廊下には、季節感を取り入れ、貼り絵や利用者の作品、写真を飾り居心地よく過ごせるような工夫をしている。	訪問調査日が12月半ばであったので、共有スペースにはクリスマスの雰囲気漂っていた。壁面の掲示板には外出時やホームの行事の時のスナップ写真が貼られ利用者の楽しそうな顔が見られた。居間兼食堂の南側には畳敷きの小上がりがあり寛げるようになっており、区の花火大会の時には特等席になるという。利用者も将棋や編み物、塗り絵、漢字書き取り、計算ドリルなど、一人ひとりの好きなこと、できることに興じている。共有スペースは床暖房で冬場も快適に過ごせるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、畳スペースがあり、利用者と職員が談話できる空間が設けられている。ホールでは、気の合った利用者同士席の配置に配慮し、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、テレビ、時計、衣類ケース、テーブル、椅子等自宅ですべて使っていた馴染みのあるもの、大切な物が置いてあり本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはベッド、洗面台、クローゼット、飾り棚が備え付けられている。クローゼットも広く、自宅から持ち込んだ衣類などはすべて収納できるので整理整頓が行き届いている。家具類の持込みは比較的少ないが、壁に写真を貼ったり、時計、カレンダーなどを掛けている利用者もいる。居室内はエアコンで温度が調節することができ、快適に過ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	脱衣室、浴室、トイレ、廊下に手すりの設置、各居室のドアは色違いになっている。居室内に於いては安全、安心に生活が送れるよう、一人ひとりにあった配置、自立した生活が送れるよう工夫している。		